

交付運用報告書

GCIエンダウメント ファンド (成長型／安定型)

成長型

| 第8期末(2023年9月25日) | |
|------------------|----------|
| 基準価額 | 12,779円 |
| 純資産総額 | 2,878百万円 |
| 騰落率 | 1.8% |
| 分配金合計 | 0円 |

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

安定型

| 第8期末(2023年9月25日) | |
|------------------|----------|
| 基準価額 | 10,974円 |
| 純資産総額 | 1,154百万円 |
| 騰落率 | △1.2% |
| 分配金合計 | 0円 |

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

追加型投信／内外／資産複合

第8期<決算日 2023年9月25日>

作成対象期間：2022年9月27日～2023年9月25日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIエンダウメントファンド(成長型／安定型)」は、このたび上記の決算を行いました。

当ファンドは、投資対象ファンド(投資信託証券)を通じて先進国、新興国を含む世界各国の株式、債券、REIT等に分散投資することで、グローバルな経済成長に沿った収益の獲得を目指します。また、グローバル分散投資によりポートフォリオのリスク低減を図ることとしており、かかる投資方針に沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区大手町2-6-4

お問い合わせ先

クライアント・ソリューション・グループ
TEL：03-6665-6952(営業日の9:00～17:00)

URL：<https://www.gci.jp>

当ファンドは、信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

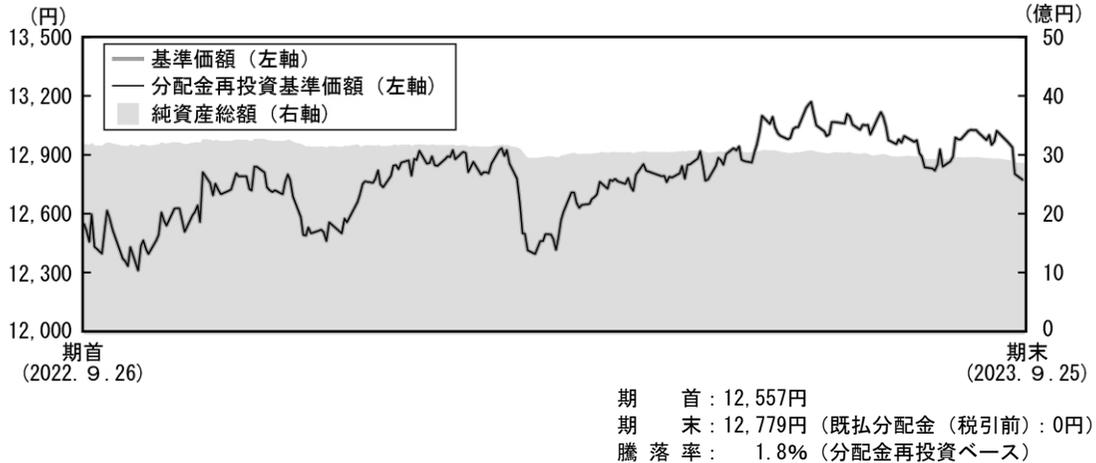
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

（成長型）

■ 基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

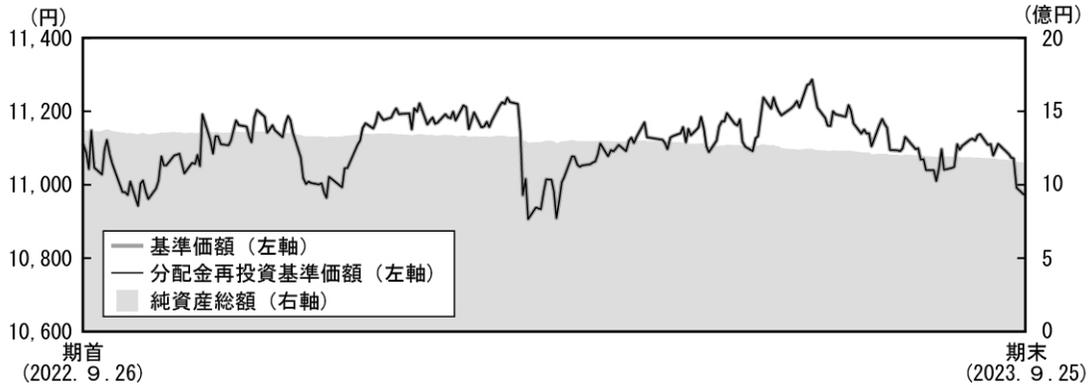
■ 基準価額の変動要因

GCIエンダウメントファンド（成長型）の基準価額は上昇し、当期間のリターンは+1.8%となりました。当期間は、インフレ抑制のために米欧中央銀行が積極的な金融引き締めを行いグローバルで国債利回りは上昇しましたが、株式市場は堅調に推移したことから、ファンドの基準価額は上昇しました。株式市場は、米欧中央銀行の利上げ局面が終盤を迎えたとの見方が広がったことや、米連邦準備制度理事会 (FRB) の利上げが継続するなかでも米国経済が堅調を維持したことなどが支えとなり上昇したことから、株式は基準価額にプラスに寄与しました。債券市場は、米欧中央銀行の断続的な大幅利上げや日銀の金融政策修正、利上げ終盤局面でも根強いインフレ懸念などから、グローバルで国債利回りは大幅に上昇したものの、債券のインカム収入や堅調な株式市場を背景としたクレジット・スプレッド（企業等の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り）の縮小などが支えとなり、債券は基準価額にプラスに寄与しました。REIT市場は、日米長期金利の上昇が重石となり下落したことから、REITは基準価額にマイナスに寄与しました。当ファンドが特徴としているオルタナティブ戦略は、2戦略に分散して投資を行いました。主に通貨のロング・ショートポジションなどから収益を積み上げた「GCI システムティック・マクロファンド Vol10 クラスA」は小幅なプラスとなった一方、複数のサブ戦略から構成される「GCI ディバーシファイドアルファファンド クラスA」が主にトレンドフォロワー系のサブ戦略からの損失によりマイナスとなったため、オルタナティブ戦略全体では基準価額にマイナスに寄与しました。また、当ファンドはドル建て資産を保有しており、為替リスクをヘッジし価格変動リスクを抑制した運用を行っていますが、為替ヘッジにかかるコストの上昇が、ファンドパフォーマンスを下押ししました。

詳しくは「投資環境」をご参照ください。

（安定型）

■ 基準価額等の推移



期 首：11,108円
 期 末：10,974円（既払分配金（税引前）：0円）
 騰 落 率：△1.2%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■ 基準価額の変動要因

GCIエンダウメントファンド（安定型）の基準価額は下落し、当期間のリターンは△1.2%となりました。当期間は、株式市場は堅調に推移しましたが、インフレ抑制のために米欧中央銀行が積極的な金融引き締めを行いグローバルで国債利回りが上昇するなか、為替ヘッジコストの負担上昇などが重石となり、ファンドの基準価額は下落しました。

株式市場は、米欧中央銀行の利上げ局面が終盤を迎えたとの見方が広がったことや、FRBの利上げが継続するなかでも米国経済が堅調を維持したことなどが支えとなり上昇したことから、株式は基準価額にプラスに寄与しました。債券市場は、米欧中央銀行の断続的な大幅利上げや日銀の金融政策修正、利上げ終盤局面でも根強いインフレ懸念などから、グローバルで国債利回りは大幅に上昇したものの、債券のインカム収入や堅調な株式市場を背景としたクレジット・スプレッド（企業等の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り）の縮小などが支えとなり、債券は基準価額にプラスに寄与しました。REIT市場は、日米長期金利の上昇が重石となり下落したことから、REITは基準価額にマイナスに寄与しました。当ファンドが特徴としているオルタナティブ戦略は、2戦略に分散して投資を行いました。主に通貨のロング・ショートポジションなどから収益を積み上げた「GCI システムティック・マクロファンド Vo110 クラスA」は小幅なプラスとなった一方、複数のサブ戦略から構成される「GCI ディバーシファイダルファファンド クラスA」が主にトレンドフォロー系のサブ戦略からの損失によりマイナスとなったため、オルタナティブ戦略全体では基準価額にマイナスに寄与しました。また、当ファンドはドル建て資産を保有しており、為替リスクをヘッジし価格変動リスクを抑制した運用を行っていますが、為替ヘッジにかかるコストの上昇が、ファンドパフォーマンスを下押ししました。

詳しくは「投資環境」をご参照ください。

■ 1万口当たりの費用明細 （成長型）

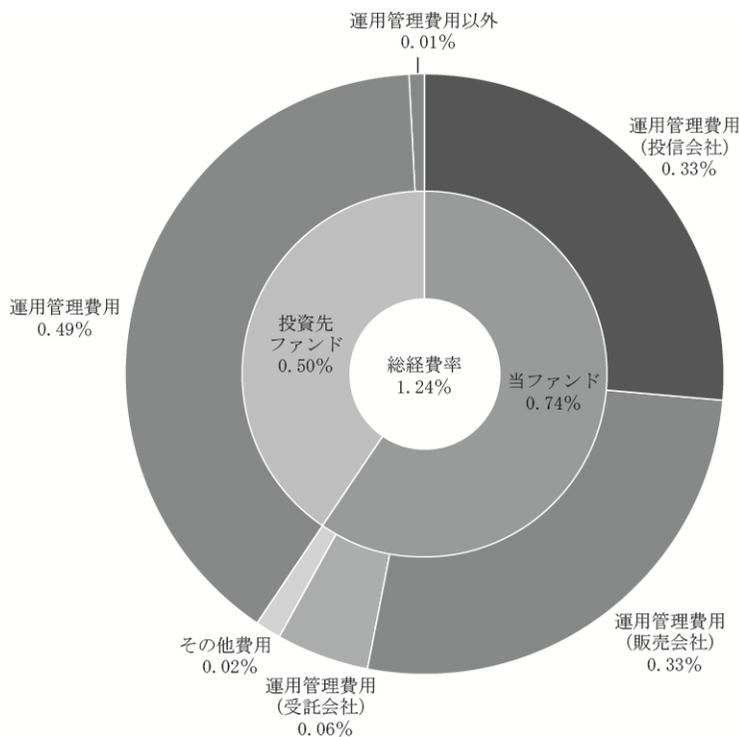
| 項目 | 第8期 | | 項目の概要 |
|-------------|-----------------------|---------|--|
| | 2022年9月27日～2023年9月25日 | | |
| | 金額（円） | 比率（％） | |
| (a) 信託報酬 | 91 | 0.713 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,783円です。 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| （投信会社） | (42) | (0.329) | |
| （販売会社） | (42) | (0.329) | |
| （受託会社） | (7) | (0.055) | |
| (b) 売買委託手数料 | 1 | 0.010 | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10,000 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （投資信託受益証券） | (1) | (0.010) | |
| (c) その他費用 | 3 | 0.021 | (c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用 |
| （保管費用） | (1) | (0.007) | |
| （監査費用） | (2) | (0.014) | |
| （その他） | (0) | (0.000) | |
| 合計 | 95 | 0.744 | |

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。
- (注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資対象ファンド（投資信託証券）（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。当該投資対象ファンドの直近の計算期末時点における費用明細が取得できるものについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」に表示することとしています。
- (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

（成長型）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.24%です。



(単位：%)

| | |
|----------------------|------|
| 総経費率 (①+②+③) | 1.24 |
| ①このファンドの費用の比率 | 0.74 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.49 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.01 |

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

(注) 投資先ファンドの一部については、運用管理費用以外の費用が含まれていない場合があります。

（安定型）

| 項目 | 第8期 | | 項目の概要 |
|-------------|-----------------------|---------|---|
| | 2022年9月27日～2023年9月25日 | | |
| | 金額（円） | 比率（％） | |
| (a) 信託報酬 | 79 | 0.713 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,113円です。 |
| （投信会社） | (37) | (0.329) | 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 |
| （販売会社） | (37) | (0.329) | 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (6) | (0.055) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 1 | 0.010 | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10,000 |
| （投資信託受益証券） | (1) | (0.010) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c) その他費用 | 5 | 0.045 | (c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 |
| （保管費用） | (1) | (0.010) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| （監査費用） | (4) | (0.034) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （その他） | (0) | (0.000) | その他は、信託事務の処理に要するその他の費用 |
| 合計 | 85 | 0.768 | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

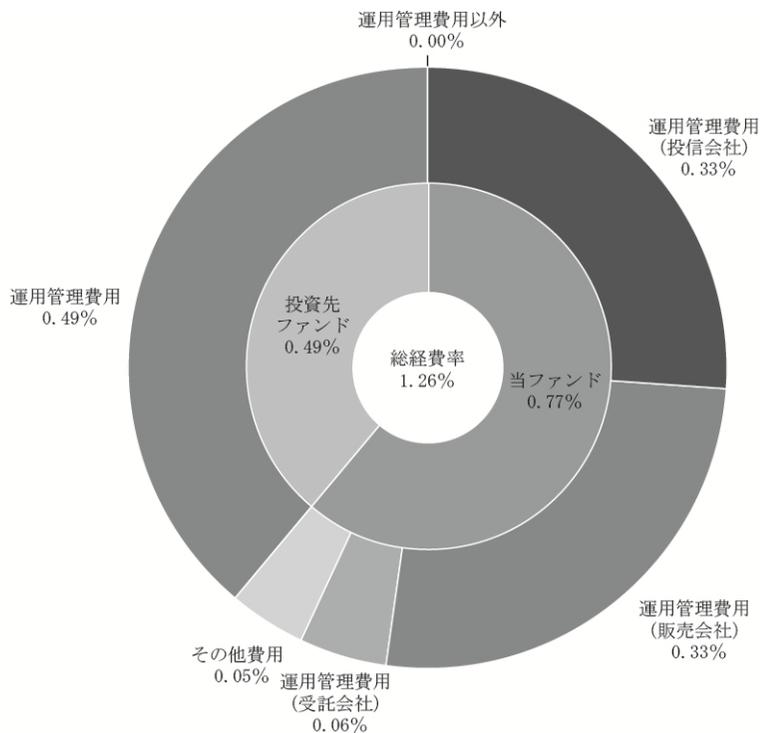
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資対象ファンド（投資信託証券）（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。当該投資対象ファンドの直近の計算期末時点における費用明細が取得できるものについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」に表示することとしています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

（安定型）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.26%です。



(単位：%)

| | |
|----------------------|------|
| 総経費率 (①+②+③) | 1.26 |
| ①このファンドの費用の比率 | 0.77 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.49 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.00 |

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

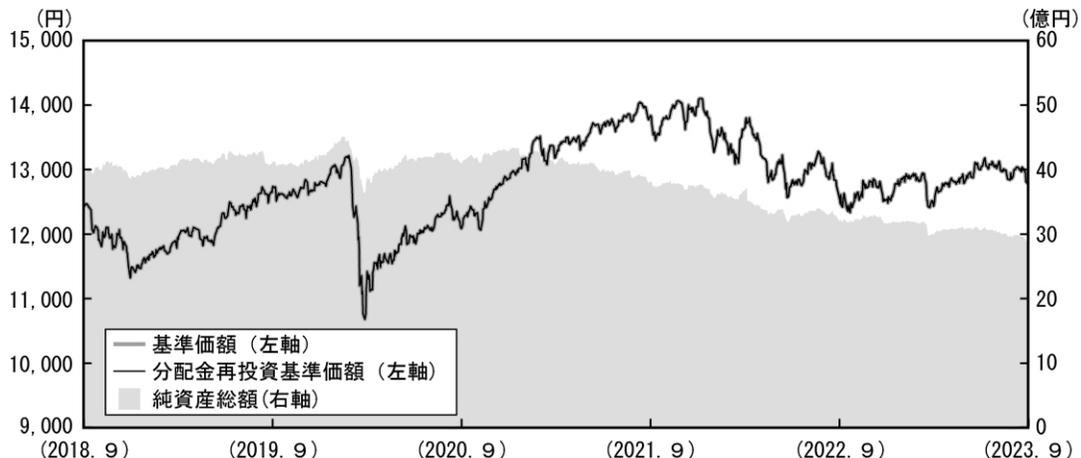
(注) 投資先ファンドの一部については、運用管理費用以外の費用が含まれていない場合があります。

■最近5年間の基準価額等の推移

（成長型）

（2018年9月26日～2023年9月25日）

最近5年間の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したもとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近5年間の年間騰落率

| 決算日 | 2018年9月25日 | 2019年9月25日 | 2020年9月25日 | 2021年9月27日 | 2022年9月26日 | 2023年9月25日 |
|--------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 基準価額 (円) | 12,444 | 12,637 | 12,077 | 13,824 | 12,557 | 12,779 |
| 期間分配金合計 (税引前) (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | 1.6 | △4.4 | 14.5 | △9.2 | 1.8 |
| 純資産総額 (百万円) | 3,747 | 4,072 | 4,079 | 3,804 | 3,201 | 2,878 |

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

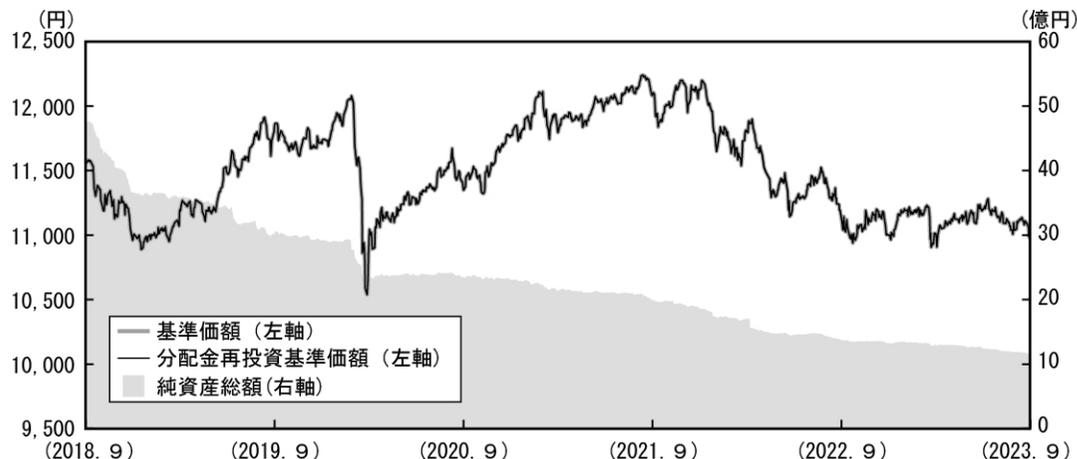
(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 各金額は、項目ごとに単位未満を切り捨てています。

（安定型）
最近5年間の推移

（2018年9月26日～2023年9月25日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したもとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近5年間の年間騰落率

| 決算日 | 2018年9月25日 | 2019年9月25日 | 2020年9月25日 | 2021年9月27日 | 2022年9月26日 | 2023年9月25日 |
|--------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 基準価額 (円) | 11,565 | 11,804 | 11,351 | 12,106 | 11,108 | 10,974 |
| 期間分配金合計（税引前） (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | 2.1 | △3.8 | 6.7 | △8.2 | △1.2 |
| 純資産総額 (百万円) | 4,672 | 3,023 | 2,342 | 1,998 | 1,375 | 1,154 |

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

（注）騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

（注）各金額は、項目ごとに単位未満を切り捨てています。

（成長型）／（安定型）

■投資環境

【先進国株式】

先進国株式市場は上昇しました。期を通して米欧中央銀行が断続的に利上げを行いました。次にインフレのピークアウト期待から利上げが終盤局面を迎えたとの見方が支えとなり上昇しました。米国株式市場は、2023年3月の米国地銀の破綻等を受け金融不安が高まる場面もみられましたが、米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを継続するなかでも米国経済が堅調を維持したことや、生成AIブームによる半導体需要の高まりからハイテク株が買われ上昇しました。欧州株式市場は、ロシアによるウクライナ侵攻を受けた景気の落ち込みが想定ほどでなかったことや、欧州中央銀行（ECB）の利上げによりインフレの鎮静化がみられたことを受けて上昇しました。国内株式市場は、インフレが進展するなかで、米国の著名投資家による日本株追加投資や国内企業の資本効率改善への取り組みを受け海外投資家が日本株を再評価する動きが広がったことや、為替の円安進行、国内企業の良好な決算などを好感し上昇しました。

【新興国株式】

新興国株式市場は上昇しました。2022年11月以降、中国が新型コロナウイルスの感染対策を緩和したこと、ゼロコロナ政策の転換により経済活動が正常化するとの見方が強まりました。2023年1月末にかけては期待先行で中国株式は上昇しましたが、ゼロコロナ政策の撤廃後は、新型コロナウイルスの感染者数が再び増加したことや、米中対立の激化などを受け下落に転じました。その後、中国政府は景気支援策により経済を下支えする姿勢を示したものの、景気減速を示す経済指標が目立ったことや中国不動産大手の信用不安により中国経済の先行きが懸念されたことなどから期末にかけても下落基調が継続し、期の前半の上昇を大きく吐き出す形となりました。当期の新興国株式は上昇したものの、先進国株式に比べるとパフォーマンスは劣後しました。

【先進国債券】

先進国債券市場は下落しました。米欧中央銀行の金融引き締め長期化を背景に、グローバルで金利は上昇（債券価格は下落）しました。米国では、FRBが大幅な利上げを継続するとの見方から期初の米10年国債利回りは4.3%台まで上昇しましたが、断続的な利上げを受けインフレが鎮静化するとの見方が広がったことや、2023年3月に発生した金融不安を受け景気減速が懸念されたことなどから一時3.2%台まで低下しました。その後は、FRBが利上げを継続するなかでも米国経済が堅調さを維持したことや、根強いインフレによるFRBの金融引き締め長期化観測などを背景にじりじりと金利は上昇し、約16年ぶりの高水準となる4.5%台まで上昇しました。欧州でも、金融不安により上げ幅を縮小する場面もみられましたが、ECBが10会合連続で利上げを継続するなかで、金利は上昇基調を継続しました。日本では、日銀が2022年12月にイールドカーブ・コントロール（YCC）政策における長期金利の許容変動幅を拡大したことや、2023年7月にYCC政策の運用柔軟化を決定したことなどを受け金利は上昇し、日10年国債利回りは10年ぶりの高水準となる0.75%近辺まで上昇しました。

【REIT市場】

REIT市場は下落しました。米国REIT市場は、FRBが利上げを継続するなかでも米国経済は堅調を維持したものの、金融不安を受けた米銀の信用収縮の動きにより商業用不動産市場の低迷が警戒されたことや、米長期金利がじりじりと上昇したことが重石となり下落しました。国内REIT市場は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行し、経済活動が正常化に向かったことが支えとなったものの、日銀の金融政策修正への警戒や国内長期金利の上昇が重石となり下落しました。

【オルタナティブ】

オルタナティブ戦略の代表格であるヘッジファンド市場は、全般的に上昇しました。戦略別では、市場での相対価値評価を的確に捉えることができたレバティフバリュー戦略や銘柄選択効果を発揮した株式マーケット・ニュートラル戦略などがアウトパフォームした一方、金融政策動向や金融不安の発生により相場のトレンド転換が起きた環境下で苦戦したCTA戦略などがアンダーパフォームしました。

【為替相場】

ドル円相場は、FRBが断続的に利上げを行うなかで、2022年10月に1ドル=151円台まで円安ドル高が進行しましたが、その後は、政府・日銀が円買い・ドル売りの為替介入を実施し急激な円安進行を阻止する姿勢を見せたことや、日銀の金融政策修正の思惑が次第に強まったことなどから一転円買いが優勢となり、2023年1月には1ドル=127円台まで円高が進行しました。もっともその後は、米長期金利が再び上昇基調となったことや、日米の金融政策の方向性には依然として相違があるとの見方などから再び円安ドル高基調となり、期末にかけては1ドル=148円台まで円安が進行しました。

■当該投資信託のポートフォリオ （成長型）

主として、各国のETFとヘッジファンドに投資しており、期初に定めた基本資産配分比率に従って運用を行いました。この基本資産配分比率は、長期間にわたり安定したパフォーマンスを実現してきた米国名門大学の基金（エンダウメント）が実践してきた投資手法・スタイルを模範としており、投資資産のうちリスク資産のウェイトを増やしつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行いました。

組入ファンドの当期末時点における組入比率については、後掲の「当該投資信託のデータ」の「当該投資信託の組入資産の内容」をご参照ください。

（安定型）

主として、各国のETFとヘッジファンドに投資しており、期初に定めた基本資産配分比率に従って運用を行いました。この基本資産配分比率は、長期間にわたり安定したパフォーマンスを実現してきた米国名門大学の基金（エンダウメント）が実践してきた投資手法・スタイルを模範としており、投資資産のうちリスク資産のウェイトを抑制しつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して安定的な運用を行いました。

組入ファンドの当期末時点における組入比率については、後掲の「当該投資信託のデータ」の「当該投資信託の組入資産の内容」をご参照ください。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

（成長型）／（安定型）

各ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

（成長型）

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

| 項目 | 第8期 | |
|-----------|-----------------------|-------|
| | 2022年9月27日～2023年9月25日 | |
| 当期分配金 | （円） | — |
| （対基準価額比率） | （％） | （－） |
| 当期の収益 | （円） | — |
| 当期の収益以外 | （円） | — |
| 翌期繰越分配対象額 | （円） | 3,130 |

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（安定型）

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

| 項目 | 第8期 | |
|-----------|-----------------------|-------|
| | 2022年9月27日～2023年9月25日 | |
| 当期分配金 | （円） | — |
| （対基準価額比率） | （％） | （－） |
| 当期の収益 | （円） | — |
| 当期の収益以外 | （円） | — |
| 翌期繰越分配対象額 | （円） | 1,875 |

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

（成長型）／（安定型）

＜運用の基本スタンス＞

「GCIエンダウメントファンド（以下「当ファンド」といいます。）」は、さまざまな市場環境を乗り越えて、長期間にわたるすばらしい運用実績を残してきたエンダウメント（大学財団）型の投資戦略をお手本に、オルタナティブ投資を積極的に活用したグローバル分散投資を行います。リスクとリターンの源泉を分散・多様化するとともに、運用コストにも注意を払い、運用資産の長期的成長を効率的に目指します。

当ファンドの運用手法はシンプルかつ頑健（Robust）です。原則として年1回、基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）を決定した上で、適宜リバランスを実行し、資産配分を維持します。

基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）は、想定リスクを成長型で年率8%、安定型で年率5%にセットし、対象資産の流動性やキャパシティ（市場規模）などを吟味して選択した投資対象ユニバースの中で、最良の期待リターンとなるように配分比率を決定します。その時々々の市場動向やムードなどに過度に振り回されず、取引コストを抑制しながら、一定のリスクを効率的に取り続けるといふ、ブレのない運用姿勢を貫きます。

長期資産形成において、もっとも重要なのは「継続」です。ときによって、うまくいくことも、そうでないときもありますが、途中で止めてしまう（その多くは損切りしてしまう）ことを避けるべく、「分散」効果を活用したリスク管理を重視します。

＜ビッグ・ピクチャー＞

2023年9月、当ファンドは年に1度の基本資産配分の点検に合わせて、その前提となるビッグ・ピクチャー（10年程度の時間軸でマクロ環境を俯瞰した投資環境の認識）の見直しを行いました。

当ファンドが運用を開始したのは2015年9月ですが、そこからさらに15年遡る2000年4月の当社設立以来、①グローバル化、②経済の市場化、③情報通信革命（IT化）という20世紀末に生じた3つの大きなトレンドが、経済成長の力強いエンジンになると同時に、ディスインフレ圧力となって低インフレ・低金利時代が長期化するというビッグ・ピクチャーを堅持してきました。そして、コロナ禍と地政学リスクの顕在化がきっかけとなり、1980年代以降長く続いてきた世界的なディスインフレと金利低下トレンドには終止符が打たれました。

数十年単位の長期スパンでみると、第二次世界大戦時の戦費調達のため米国などで実施された財政ファイナンス（大量の国債を中央銀行が買い入れる措置）とその後の石油危機により、1940年から1980年まで40年間のインフレの時代がありました。その後、1980年以降40年間はグローバル化を背景にしたディスインフレ時代が続きましたが、それを政策的に後押ししたリーマン危機後の未曾有の量的金融緩和と財政拡張が、コロナ禍と地政学リスクの顕在化（ロシアによるウクライナ侵攻と米中対立）を契機に大きな転機を迎えたものと考えています。

グローバル化は、平和の配当を通じて経済成長という恩恵をもたらした一方、格差拡大や内向き志向などの副作用も顕在化しました。しかしながら、人類の自由への希求と技術革新が停滞するとは考えにくく、グローバル化という太く大きな潮流自体は不変だと考えます。デジタル化（DX）や脱炭素などを強力なドライバーとして、紆余曲折を経ながらもグローバル経済は成長を続けていくことが期待されます。一方、低インフレを背景に主要国が続けてきた緩和的な財政金融政策がどうとう行き着くところまで行き、反転したことはおそらく間違いなく、ディスインフレが終わってイ

ンフレ的な環境に移行したものと思われます。

資産運用という観点では、主要国の歴史的金融緩和政策を受けて債券高・株高が続いたことから、シンプルなパッシブ運用が良好なパフォーマンスを上げました。為替市場でドル高円安が大きく進んだことから、日本の円建て投資家にとっては為替をオープンにすることで、ヘッジコストを避けるだけでなく、為替差益を享受することも可能でした。結果的に、円建ての期待リスクを最優先に管理し、そのうえでリターンを極大化を目指していく当ファンドにとっては相対的に逆風の環境でした。しかしながら、今後は市場ボラティリティが高まり、運用環境も変化するのではないかと考えています。

そのような不確実性の高い環境では、「分散」とそれに基づくリスク管理が最善の対応のひとつと考えています。米国学エンダウメント型のポートフォリオをお手本とする当ファンドの特徴はオルタナティブの活用です。とくに、ショート・ポジション（売りから入る）をとることも可能なヘッジファンドを利用することで、効果的な分散効果と安定したリターンを得ることができると考えています。

当ファンドは、市場環境にかかわらず、円建ての変動リスクを想定範囲内に抑制することに努め、資産価値の保全を最優先しながら、人類とグローバル経済の成長をリターンの源泉として、長期的な成長を目指してまいります。受益者のみなさまにおかれましても、こうした投資哲学・運用に対するブレない姿勢をご理解いただき、腰を据えた長期資産運用・資産形成にご一緒にお取り組みくださいますよう、お願い申し上げます。

<基本資産配分>

ビッグ・ピクチャーを前提に、2023年9月は年1回の基本資産配分の点検を行いました。ファンドのリスク水準は想定通りである一方、近年のヘッジコストの上昇を受け、基本資産配分の変更を実施しております。GCIエンダウメントファンドは円ベースでのリスク・リターンの最大化を目指す運用を継続しており、外貨建資産については、投資判断により対円での為替ヘッジを行っております。しかし、近年のヘッジコストの急速な上昇に伴い、外貨建資産のリスク・リターンは悪化しており、当面も期待できるリターンが低いことから、成長型では外貨建資産（先進国株（米国）、先進国株（除く米国）、海外リート）の比率を引き下げ、日本株、国内リートの比率を引き上げる対応を行いました。安定型では外貨建資産（先進国株（除く米国）、先進国債券（米国）、海外債券（グローバル除く米ドル建て）、海外リート）の比率を引き下げ、日本株、国内リートの比率を引き上げる対応を行いました。また、成長型は12月に外貨建資産の比率の引き下げをもう一段階予定しております。

お知らせ

（成長型）／（安定型）

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

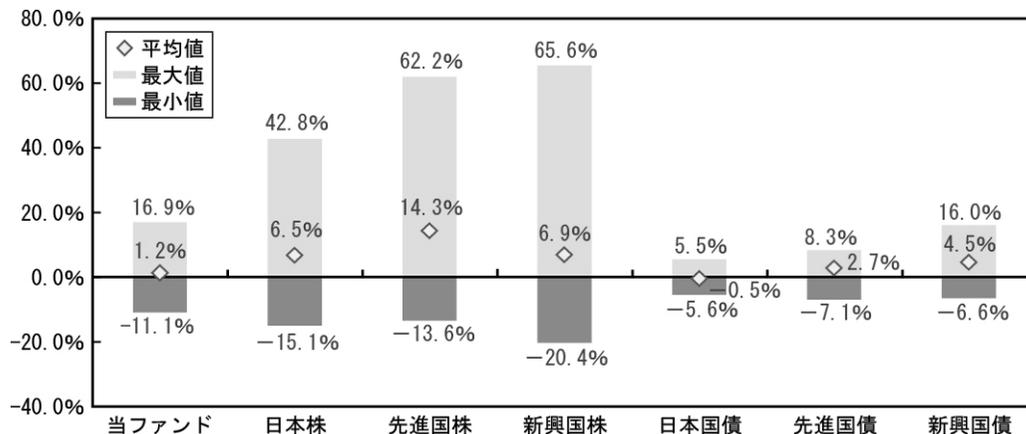
該当事項はありません。

当該投資信託の概要

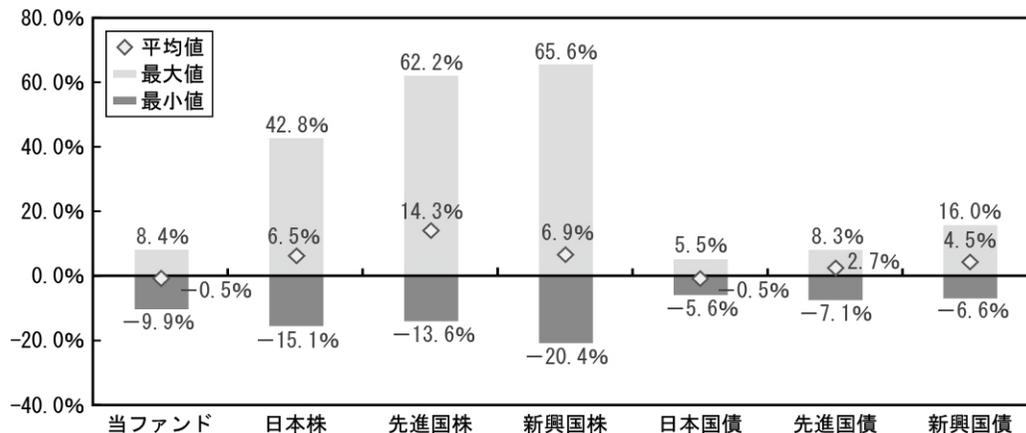
| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 | |
| 信託期間 | 原則として無期限（2015年9月25日設定） | |
| 運用方針 | 成長型 | 投資資産のうちリスク資産のウェイトを増やしつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。 |
| | 安定型 | 投資資産のうちリスク資産のウェイトを抑制しつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して安定的な運用を行います。 |
| 主要投資対象 | <p>以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信 ・バンガード・S&P500 ETF ・バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF ・バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF ・バンガード・米国トータル債券市場ETF ・バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり） ・NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信 ・バンガード・リアル・エステート ETF ・GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスA ・GCIディバーシファイドアルファファンド クラスA ・GCIマネープールマザーファンド | |
| 運用方法 | 投資対象ファンド（投資信託証券）を通じて先進国、新興国を含む世界各国の株式、債券、リートなどに分散投資することで、グローバルな経済成長に沿った収益の獲得を目指します。また、グローバル分散投資によりポートフォリオのリスク低減を図ります。 | |
| 分配方針 | 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。 | |

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

（成長型）



（安定型）



期間：2018年9月～2023年8月

(注) 上記は2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株：Morningstar日本株式指数
 先進国株：Morningstar先進国株式指数除く日本
 新興国株：Morningstar新興国株式指数
 日本国債：Morningstar日本国債指数
 先進国債：Morningstarグローバル国債指数除く日本
 新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数

※全て税引前の利子・配当込みの指数値を使用しています。海外資産の指数については、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数値を使用しています。

<各指数の概要>

日本株：Morningstar日本株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar先進国株式（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar新興国株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar日本国債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstarグローバル国債（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

当ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc. が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または当ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。当ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstar インデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。

上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstar グループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

（成長型）

◇組入ファンド等

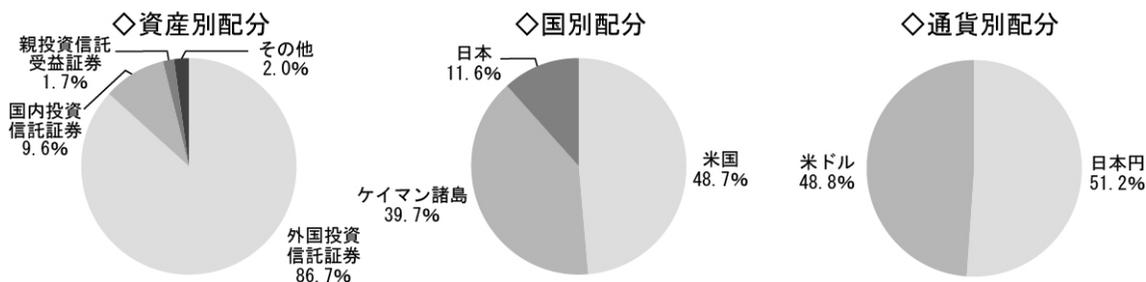
（組入銘柄数：11銘柄）

| | 第8期末 (2023年9月25日) |
|-------------------------------------|----------------------|
| GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスA | 21.3% |
| GCIディバーシファイダルファファンド クラスA | 17.6% |
| バンガード・S&P500 ETF | 16.9% |
| バンガード・米国トータル債券市場ETF | 9.7% |
| バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF | 9.5% |
| バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり） | 5.1% |
| NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信 | 4.8% |
| NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信 | 4.8% |
| バンガード・リアル・エステート ETF | 4.6% |
| バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF | 2.0% |
| その他 | 3.7% |

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する各組入ファンドの評価額の比率です。

（注）上位3ファンドについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」をご参照ください。

（注）その他は現金・未払金等です。



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）国別配分は、国・地域別による配分で比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

| 項目 | 第8期末 (2023年9月25日) |
|------------|----------------------|
| 純資産総額 | 2,878,274,792円 |
| 受益権総口数 | 2,252,422,669口 |
| 1万口当たり基準価額 | 12,779円 |

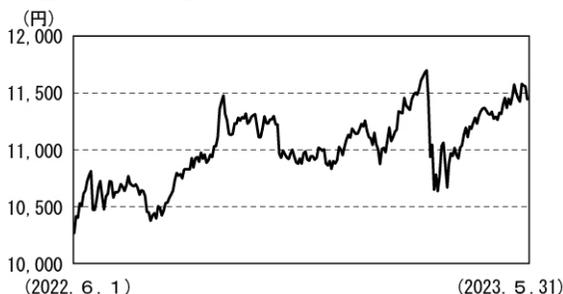
（注）当期中における追加設定元本額は231,794,020円、一部解約元本額は529,166,636円です。

■組入上位ファンドの概要

（成長型）

《GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA》

◇基準価額の推移



◇組入上位10銘柄

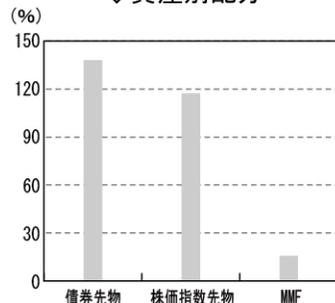
2023年5月31日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 国 | 組入比率 (%) |
|-------|---|--------|-----|------|----------|
| 1 | 2-Year T-Note Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 93.6 |
| 2 | Euro STOXX 50 Index Futures Jun23 | 株価指数先物 | EUR | ドイツ | 44.0 |
| 3 | E-mini Russell 2000 Index Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 33.2 |
| 4 | 10-Year T-Note Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 24.5 |
| 5 | TOPIX Futures Jun23 | 株価指数先物 | JPY | 日本 | 23.0 |
| 6 | Long Gilt Futures Sep23 | 債券先物 | GBP | イギリス | 15.9 |
| 7 | Goldman Sachs Funds US Liquid Reserves- I | MMF | USD | アメリカ | 15.5 |
| 8 | CAC 40 Index Future Jun23 | 株価指数先物 | EUR | フランス | 14.4 |
| 9 | U. S. Treasury Bond Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 4.0 |
| 10 | E-mini Nasdaq-100 Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 1.8 |
| 組入銘柄数 | | | | | 11銘柄 |

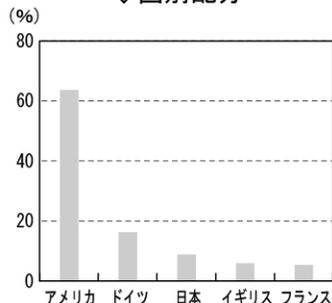
(注) 銘柄は、GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地およびMMFは発行体の所在地です。

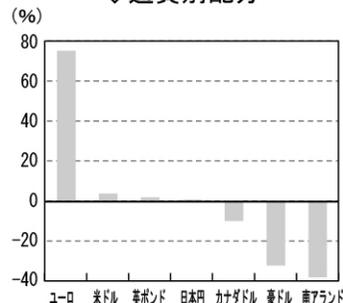
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

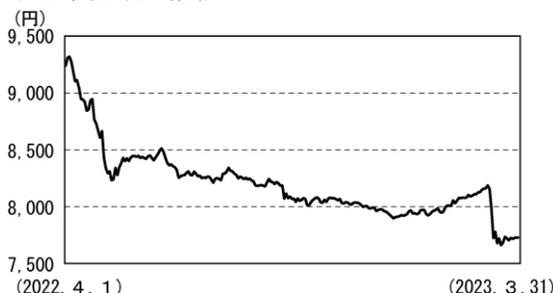
(注) 通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合であり、うち日本円は、他の通貨ごとのエクスポージャーを調整した割合です。

■組入上位ファンドの概要

（成長型）

《GCIディバーシファイドアルファファンド クラスA》

◇基準価額の推移



◇組入上位10銘柄

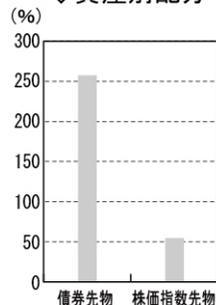
2023年3月31日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 国 | 組入比率 (%) |
|-------|---|--------|-----|------|----------|
| 1 | 2-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 74.3 |
| 2 | 5-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 69.2 |
| 3 | Euro-Bobl Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 35.8 |
| 4 | 10-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 23.9 |
| 5 | Euro-Bund Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 18.9 |
| 6 | U. S. Treasury Bond Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 17.8 |
| 7 | S&P/TSX 60 Index Standard Futures Jun23 | 株価指数先物 | CAD | カナダ | 12.9 |
| 8 | Euro-Buxl Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 11.0 |
| 9 | DAX Futures Jun23 | 株価指数先物 | EUR | ドイツ | 6.9 |
| 10 | E-mini Nasdaq-100 Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 6.4 |
| 組入銘柄数 | | | | | 21銘柄 |

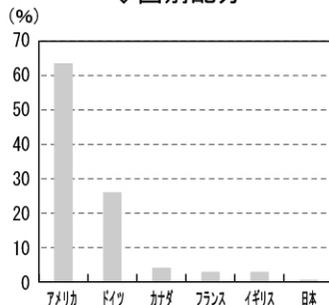
(注) 銘柄は、GCIディバーシファイドアルファファンド クラスAが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地です。

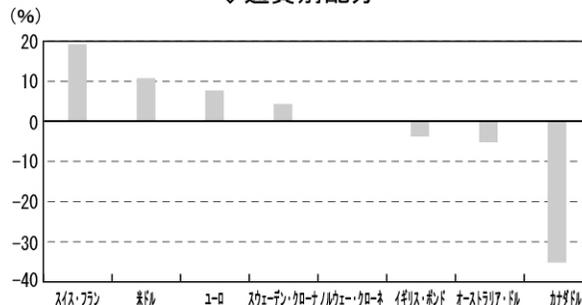
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかっているものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

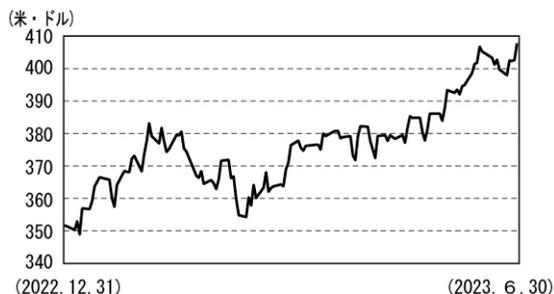
(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

(注) 通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合です。

■組入上位ファンドの概要 （成長型）

《バンガード・S&P500 ETF》

◇基準価額の推移



◇費用明細

| 項目 | 比率 |
|-----------------|-------|
| 経費率（エクスペンス・レシオ） | 0.03% |

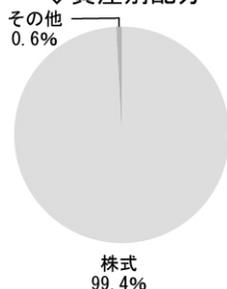
※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経費率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経費率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経費率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

◇組入上位10銘柄

2023年6月30日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 組入比率（%） |
|-------|---------------------------------|----|-----|---------|
| 1 | Apple Inc. | 株式 | 米ドル | 7.67 |
| 2 | Microsoft Corp. | 株式 | 米ドル | 6.77 |
| 3 | Amazon.com Inc. | 株式 | 米ドル | 3.11 |
| 4 | NVIDIA Corp. | 株式 | 米ドル | 2.80 |
| 5 | Alphabet Inc. Class A | 株式 | 米ドル | 1.90 |
| 6 | Tesla Inc. | 株式 | 米ドル | 1.89 |
| 7 | Facebook Inc. Class A | 株式 | 米ドル | 1.70 |
| 8 | Alphabet Inc. Class C | 株式 | 米ドル | 1.65 |
| 9 | Berkshire Hathaway Inc. Class B | 株式 | 米ドル | 1.63 |
| 10 | UnitedHealth Group Inc. | 株式 | 米ドル | 1.20 |
| 組入銘柄数 | | | | 505銘柄 |

◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のもので。

(注) 費用明細、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

（安定型）

◇組入ファンド等

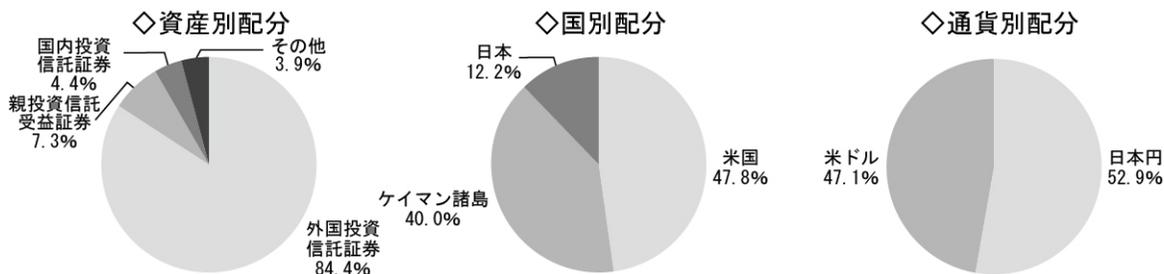
（組入銘柄数：10銘柄）

| | 第8期末 (2023年9月25日) |
|-------------------------------------|----------------------|
| GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスA | 21.0% |
| バンガード・米国トータル債券市場ETF | 19.2% |
| GCIディバーシファイダルファファンド クラスA | 17.4% |
| バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり） | 13.2% |
| GCIマネーボールマザーファンド | 7.3% |
| バンガード・S&P500 ETF | 6.9% |
| バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF | 4.5% |
| NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信 | 2.3% |
| バンガード・リアル・エステート ETF | 2.2% |
| NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信 | 2.1% |
| その他 | 3.9% |

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する各組入ファンドの評価額の比率です。

（注）上位3ファンドについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」をご参照ください。

（注）その他は現金・未払金等です。



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）国別配分は、国・地域別による配分で比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

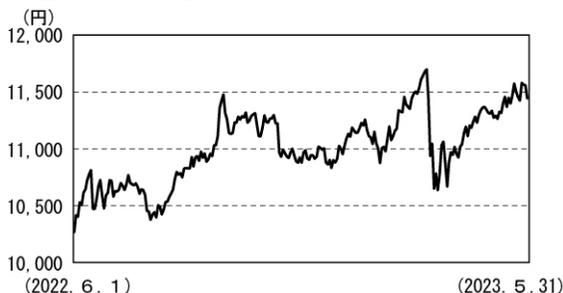
| 項目 | 第8期末 (2023年9月25日) |
|------------|----------------------|
| 純資産総額 | 1,154,032,292円 |
| 受益権総口数 | 1,051,646,056口 |
| 1万口当たり基準価額 | 10,974円 |

（注）当期中における追加設定元本額は57,569,937円、一部解約元本額は243,839,636円です。

■組入上位ファンドの概要 （安定型）

《GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA》

◇基準価額の推移



◇組入上位10銘柄

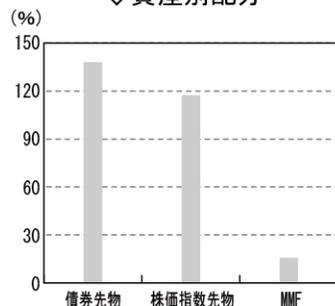
2023年5月31日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 国 | 組入比率 (%) |
|-------|---|--------|-----|------|----------|
| 1 | 2-Year T-Note Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 93.6 |
| 2 | Euro STOXX 50 Index Futures Jun23 | 株価指数先物 | EUR | ドイツ | 44.0 |
| 3 | E-mini Russell 2000 Index Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 33.2 |
| 4 | 10-Year T-Note Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 24.5 |
| 5 | TOPIX Futures Jun23 | 株価指数先物 | JPY | 日本 | 23.0 |
| 6 | Long Gilt Futures Sep23 | 債券先物 | GBP | イギリス | 15.9 |
| 7 | Goldman Sachs Funds US Liquid Reserves- I | MMF | USD | アメリカ | 15.5 |
| 8 | CAC 40 Index Future Jun23 | 株価指数先物 | EUR | フランス | 14.4 |
| 9 | U. S. Treasury Bond Futures Sep23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 4.0 |
| 10 | E-mini Nasdaq-100 Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 1.8 |
| 組入銘柄数 | | | | | 11銘柄 |

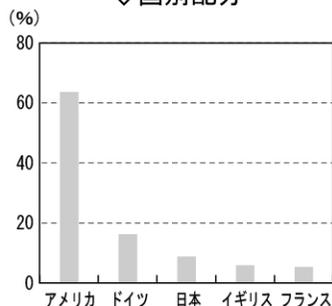
(注) 銘柄は、GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地およびMMFは発行体の所在地です。

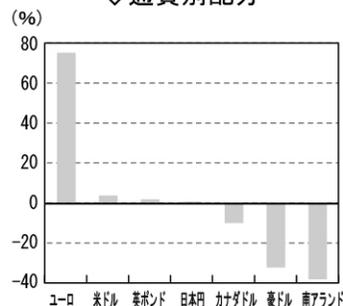
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

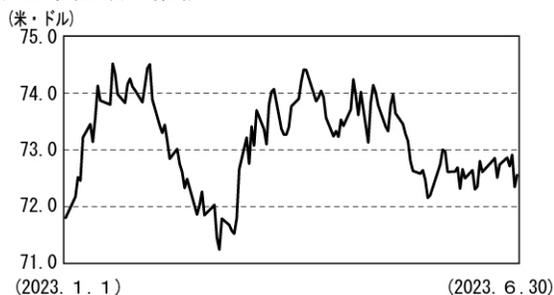
(注) 通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合であり、うち日本円は、他の通貨ごとのエクスポージャーを調整した割合です。

■組入上位ファンドの概要

（安定型）

《バンガード・米国トータル債券市場ETF》

◇基準価額の推移



◇費用明細

| 項目 | 比率 |
|-----------------|-------|
| 経费率（エクスペンス・レシオ） | 0.03% |

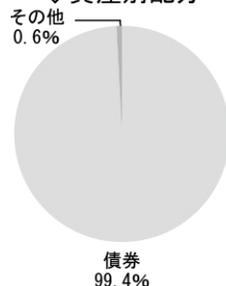
※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経费率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経费率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経费率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

◇組入上位10銘柄

2023年6月30日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 組入比率（%） |
|-------|--|----|-----|----------|
| 1 | United States Treasury Note/Bond 2.625% 07/31/2029 | 債券 | 米ドル | 0.59 |
| 2 | United States Treasury Note/Bond 0.75% 04/30/2026 | 債券 | 米ドル | 0.59 |
| 3 | United States Treasury Note/Bond 1.375% 11/15/2031 | 債券 | 米ドル | 0.49 |
| 4 | United States Treasury Note/Bond 4.125% 11/15/2032 | 債券 | 米ドル | 0.48 |
| 5 | United States Treasury Note/Bond 1.875% 02/15/2032 | 債券 | 米ドル | 0.48 |
| 6 | United States Treasury Note/Bond 2.75% 08/15/2032 | 債券 | 米ドル | 0.47 |
| 7 | United States Treasury Note/Bond 2% 08/15/2025 | 債券 | 米ドル | 0.47 |
| 8 | United States Treasury Note/Bond 1.25% 04/30/2028 | 債券 | 米ドル | 0.45 |
| 9 | United States Treasury Note/Bond 3.5% 02/15/2033 | 債券 | 米ドル | 0.41 |
| 10 | United States Treasury Note/Bond 1.25% 08/15/2031 | 債券 | 米ドル | 0.40 |
| 組入銘柄数 | | | | 10,543銘柄 |

◇資産別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のものであります。

(注) 費用明細、組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

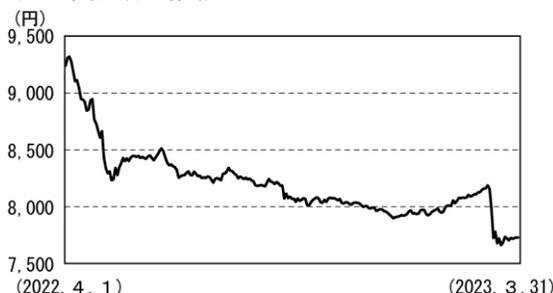
(注) 国別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

■組入上位ファンドの概要

（安定型）

《GCIディバーシファイドアルファファンド クラスA》

◇基準価額の推移



◇組入上位10銘柄

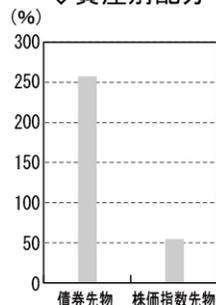
2023年3月31日

| | 銘柄名 | 種類 | 通貨 | 国 | 組入比率 (%) |
|-------|---|--------|-----|------|----------|
| 1 | 2-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 74.3 |
| 2 | 5-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 69.2 |
| 3 | Euro-Bobl Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 35.8 |
| 4 | 10-Year T-Note Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 23.9 |
| 5 | Euro-Bund Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 18.9 |
| 6 | U. S. Treasury Bond Futures Jun23 | 債券先物 | USD | アメリカ | 17.8 |
| 7 | S&P/TSX 60 Index Standard Futures Jun23 | 株価指数先物 | CAD | カナダ | 12.9 |
| 8 | Euro-Buxl Futures Jun23 | 債券先物 | EUR | ドイツ | 11.0 |
| 9 | DAX Futures Jun23 | 株価指数先物 | EUR | ドイツ | 6.9 |
| 10 | E-mini Nasdaq-100 Futures Jun23 | 株価指数先物 | USD | アメリカ | 6.4 |
| 組入銘柄数 | | | | | 21銘柄 |

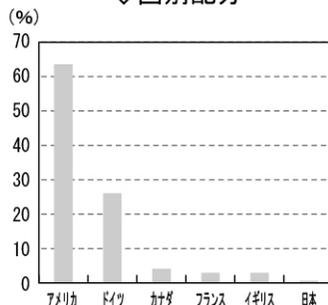
(注) 銘柄は、GCIディバーシファイドアルファファンド クラスAが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地です。

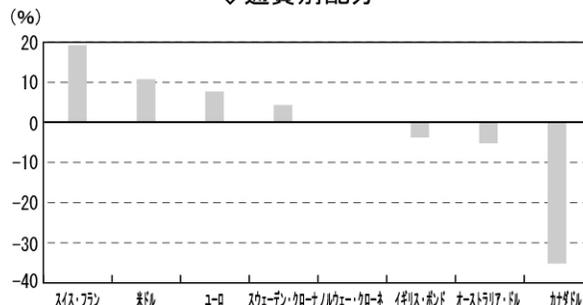
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

(注) 通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャー（ネット）の割合です。